

1月28日(水) 税の仕組みを学ぶ

▶実際に一億円の重さを体験する児童



広野小学校6年生を対象に租税教室が開催されました。税の必要性や税金の仕組みを学びました。児童たちは1億円の重さを体験したり、ビデオを見てクイズに答えるなどして理解を深めました。

2月3日(火) 元気に豆まき「オニは～そと！」

広野保育所と広野幼稚園で豆まきが行われ、子どもたちが鬼に豆をぶつけて福を招く行事を楽しみました。子どもたちは自分たちで作った鬼のお面をかぶって「オニはくそと！フクはくうち！」と掛け声をかけながら鬼を追い払っていました。



▲お面をかぶった子どもたち(保育所)



▲園庭いっぱい走り回る園児(幼稚園)

2月15日(日) 78人が熱戦を繰り広げる

第6回福島民友新聞社杯パークゴルフ大会が二ツ沼総合公園で開催されました。町内外から78人が出場しプレーを楽しみました。



▶パークゴルフ場では梅が咲き始めていました

スコア

男子

- ★優勝 西山 幸雄さん(いわき市) 107
- ★準優勝 太田 忠義さん(広野町) 108
- ★3位 坂本 好司さん(広野町) 109

女子

- ★優勝 松本 君枝さん(楢葉町) 114
- ★準優勝 西野 ツマさん(広野町) 118
- ★3位 仲野 ヨウ子さん(いわき市) 119

2月13日(金)～2月15日(日) Jヴィレッジなでしこカップ開催



▶熱戦が展開されました



▲全国から訪れた方に広野をPRしました

会場では市町村ブースが設けられ広野産のうどんやみかんジュースが無料で振舞われ選手や応援の皆さんに好評でした。

全国ガールズ8(12才以下)サッカーフェスティバル「第5回Jヴィレッジなでしこカップ」が行われました。全国各地から32チームが出場。福島県からはエステレーラ相馬(相馬市)と花かつみレディースFC(郡山市)が出場しました。

おいしい 広野町

～地産地消の取り組み～

広野町でとれた食材を広野町内で消費する「地産地消」の取り組みは、新鮮で安心・安全な食材を食卓に届けるだけではなく、農家の活性化へとつながります。

また、生産した米や野菜を町外へPRすることも販売促進やブランドの確立、消費拡大につながります。

広野町の農家の皆さんの取り組みを感想を交えて紹介します。

小学生との交流給食



「交流給食」に参加して

白土 豊子 さん

私は、二ツ沼総合公園直売所組合員として去年の5月から『二ツ沼総合公園直売所の野菜を多く利用して子供達により安心、安全な給食を』と言う学校と町との取組に参加しています。

この度、私たち生産者と小学生との交流給食が1月28日に開催され組合員9名の参加者と給食センター調理員6名が各学年の出迎えと案内で各教室へ行きました。献立は、黒米入りごはん、さんまねぎソースかけ、切り干し大根、芋がらのみそ汁、牛乳、イチゴ2個でした。この中で、地元の食材は、黒米切り干し大根、芋がら、白菜、長ねぎ、にんじんです。黒米入りごはんは私も初めてでしたが、噛んでいると黒米の甘さがあり、子供たちに話したら、おかわりをして「うん。あまい。あまい。」と言ってくれたのが嬉しかったです。味噌汁は、私にはだいが薄味でしたが子供たちは普通と答えていたのが印象に残りました。

その後、校長室での参加者の反省会では、参加者全員が「とてもおいしく満腹になる量だった。」と答えていました。また、組合員からは「子供たちの食べ残しや牛乳の飲み残しが一部見られたので利活用ができないものか」という意見が出されました。次に、調理員さんからは「教室で給食を食べてみると、思ったより給食が冷たくなっている。」という感想も出ました。いかに温かく、おいしく子供たちの口に入るように努力しているかがうかがわれました。

これからも、この学校と町政の取組に今まで以上に直売所の組合員全員が一丸となり、より多くの安心・安全な食材を提供して健康で健全なる子供たち（孫）の成長を願い学校を後にしました。

家庭での台所は病院です。そこで料理するお母さんはお医者さんです。こんな言葉を私は思い出しました。これからも、この家庭の病院での薬作りが私達の野菜作り



▲おいしい給食をいただきました

ではないでしょうか？これからも一生懸命に身体に良い野菜を愛情を込めて作っていきたくと改めて思いました。

第15回 伊東温泉めちやくちゃ市



「第15回伊東温泉めちやくちゃ市」に参加して

新妻 良平 さん

1月24日、25日の2日間「伊東温泉めちやくちゃ市」に参加させていただきました。私は、去年も参加させていただいたので2回目です

が、改めてその盛況ぶりに驚かされました。地場産の野菜が少ない土地柄とは言え、私たちが生産したお米や野菜が飛ぶように売れる様は、本当にうれしいことです。昨年も、売切れが続出したので今年は商品の数を倍増して行ったのですが、米や野菜に関しては1日目ではほぼ完売、その他の商品も2日目には完売、売れ残ったのはほんの数点だけでした。来場者からは「もう無いの、来年はもっと沢山持ってきてね。」などと言われ本当に楽しい時間でした。また来年伺うことが本当に楽しみです。

これまでの農家は、こうした消費者と直接コミュニケーションを取ることが足りなかったと思います。苦手だったのかもしれませんが、都市部の消費者は本当に生産者の顔が見える安全な農産物を、私達生産者が考える以上に望んでいます。私達農家は、あらゆる消費者とコミュニケーションを取る機会を大切に信頼関係を築いていけば、消費者一人ひとりのパーソナルブランドとなることができると思います。これからの農業は生産だけではなく、販売まで責任を持つことが大事です。それが、国産農産物の消費を拡大させることになり、しいては自給率のアップにつながると考えます。

そのためにも、広野町直売所が広野の農業の一つの対外的な窓口として果たす役割は、非常に重要になってくると思います。これからも、若い人も先輩の方々と一緒に、広野町の農業がますます元気になれるよう頑張りたいと思います。ありがとうございました。



▲広野産のお米や野菜が大人気でした